



女性だけ、 新しい種へ。

この国の新しい女性たちは、可憐に、屈強に、理屈抜きに前へ歩く。

この国の女性たち。別の言い方で「女の子」、あるいは「女子」、あるいは「ガールズ」。

彼女たちのファッションは、もう男性を意識しない。

彼女たちは、もう男性を見ない。もう、自分を含めた女性しか見ない。

彼女たちのファッションは、もう欧米などに憧れない。

それどころか海外が、自分たちに驚きはじめている、でもそのことすら気にもかけない。

彼女たちはもう、「年齢を捨てなさい」などという言葉など待っていない。

そんなこととっくに思っている。いや、もうとっくに実現している。

このままいくと、女性と男性は、どんどん別の「種」に分かれていくのではないか。

いつか、女性は男性など必要とせずに、自分たちの子孫を増やしはじめるのではないか。

彼女たちは新しい種として、これからますます闊歩し、飛躍し、謳歌していく。

さてもう片方の種は、果たしてどこへ行くのだろうか。

それとも、指をくわえたまま、どこにも行かないのだろうか。

世界で、ある意味、もっとも平和で、もっとも進化した、この不思議な国で。

発行部数 No.1 へ。宝島社の女性誌